

祝・ユネスコ無形文化遺産登録

伝統建築工匠の技

ひわだぶき こけらぶき げんば ふ さぎょういぜん
 檜皮茸・柿茸とも、現場の茸き作業以前
 ざいりょうちょうたつ じゅんび やね ふ さぎょうこうてい
 の材料調達・準備が、屋根茸き作業工程の
 たいはん し い
 大半を占めると言われています。これらの
 さぎょう でんとうけんちくこうしょう わざ いちぶ
 作業も「伝統建築工匠の技」の一部として
 ユネスコ無形文化遺産に登録されています。

重要文化財 臨春閣

保存修理事業




ひわださいしゅう 檜皮採集

ひわだ さいしゅう しょくにん
 檜皮を採集する職人
 もとかわし
 を「原皮師」とい
 ひわだ ひのき じゅひ けいせいそう
 ます。檜皮は檜の樹皮ですが、形成層※
 そとがわ は き いた じゅひ
 より外側から剥ぐため樹は傷まず樹皮は
 さいせい じゅうすうねんご かわ は
 再生し、十数年後にはまた皮を剥ぐこと
 なわいっぼん たか
 ができるようになります。縄一本で高さ
 すう のぼ あ うんどうのうりよく
 10数メートルまで登り上がる運動能力、
 もり き みきわ けいけん め ひつよう
 森や木を見極める経験と目が必要です。
 ※形成層：樹木内にある盛んに細胞分裂を繰り返す組織



ひわだこしら 檜皮拵え

やま さいしゅう ひわだ やね ふ
 山で採集された檜皮を、屋根を茸く
 てきせつ かたち あつ ととの さぎょう
 のに適切な形・厚みに整える作業で
 す。座り仕事で負担が大きく、かつ地道な作業ですが、
 したじゅんび やね ふ こうてい わり し えん
 この下準備が屋根茸き工程の8割を占めるとされる「縁
 した ちからも ひわだぼうちょう よ どくとく どうぐ
 の下の力持ち」です。「檜皮庖丁」と呼ばれる独特の道具で、
 き へぐ そ つ あ かこう ひつよう さちよう
 切る・粉ぐ・削ぐ・突き合わせるなど加工に必要な作業
 をすべてこなします。



こけらいたせいさく 柿板製作

き うす わ さ
 サワラやスギなどの木を薄く割り裂
 こけらいた つく さぎょう まるた
 いて「柿板」を作る作業です。丸太
 わり (6つ割) し、そこから厚さ1寸6分 (=約
 あつた き だ にとうぶん さい
 48mm) の厚板を切り出し、それをひたすら二等分して、最
 しゅうてき あつ ぶ やく いた つく だ き せい
 終的に厚さ1分 (=約3mm) の板を作り出します。木の性
 しつ みきわ ていねい む あ しせい かんよう
 質を見極め、丁寧に向き合っていく姿勢が肝要です。



でんとう わざ う つ しごと
 伝統の技を受け継ぐ仕事、カッコイイなあ！
 きょうみ
 興味があったら↓を見てみてね♪

More info 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会
<http://www.shajiyane-japan.org/>



Special Thanks to:
 善 株式会社 児島工務店